

口の臭味を治し……口中香水の製法

石炭酸水二十滴、アルコール半勺を水一合に混ぜて含嗽劑をなしまづ楊枝でよく、齒齦を洗ひ、次に含嗽劑を筆につけて齒齦に塗るがよい、毎日三四回宛缺さず行へば齒齦が強固まつて、悪き匂ひは自然と消へてしまひます。
口中香水の製法、オルリス丁幾三合とアルコール三合に薔薇精三合を混じ、それに扁桃油十滴程落して造るのであります、そうして之を使ふ時は豫め口中を清く磨いて置いて、其の後で一寸含むで吐き出すのであります。

齒を白くする法

凡そ一升ばかりの水に、硼砂十六匁を入れて火にかけて、よく溶解させ、火より下ろし、冷へ切らぬ前に、没薬一匙、樟腦一匙を加へ、壺に入れて置き、使ふ時は盃に

一杯ばかりを一合六勺ばかりの、微温湯に加へ、口に含み齒を洗ふのです、毎日之を使用すれば唯齒の色を白くし光澤を美しくするばかりでなく、齒質を強くし酒石質の粘つくのを防ぐ効があります。

肥へる法瘦せる法

肥へる法は常に攝生に心掛け、湯水を多く飲まないやうにし、努めて脂肪性の食物を採り、適宜の運動をなし、新鮮なる果實野菜を食し、又常に肝油を用ふれば、効果が見はれます。

瘦せる法、肥満してゐるのは畢竟脂肪が多すぎることですから、成る丈け脂肪質の食物を避け適宜の運動を勵行し、毎朝朝食一時間前に茶碗に一杯づつ冷水を飲むで便通をよくし、尙毎日梅干一個と山椒の實五粒を缺さず食すれば効があります。

腋臭の簡易療法

朝夕石鹼にてよく洗ひ、焼明盤、酢、硼砂溶液等を擦り込むで置くのが簡便であります。

又タンノホルム一〇、〇に亞鉛華澱粉九〇、〇を混和して湯上りの後等に撤布するものもよろしいのであります。

其他、綠青（薬店にあり）五匁と白粉五匁を混合し毎日湯上りに腋の下へ擦り込むで置くのも有効です、又胡桃を潰してすり込むでにおいても良く効きます、尙根治するには、専門醫の汗線切開手術を要しますが大抵は右の療法を根よく行へば臭氣は取れます。

疣、ニキビ、ソバカス、色斑の療法

疣は痛くもなし大した障りにもならぬものですが、出来所によつては、澤山簇生して見つともないものであります、之を取るには薏苡仁（鳩麥）（薬店にあり）を麥粒のまゝでも粉末でもよろしいのであります、それを買つて来て煮て喰べてもよし疣につけても治ります。

ニキビは、毎朝三四十倍の極く熱い硼酸溶液を拵しらへ、之に手拭を浸し熱いのを我慢して顔にあてればよろしいのであります。

ソバカスは、豫防法として顔面マッサージを常に行ひ、血液の循環をよくし、なるべく日光の直射を避けた方がよいのであります、ソバカスと太陽光線中の紫外線とは何等かの關係を持つて居る如うです、手當としては、夜はレモン汁を薄くしてつけ、尙クリームを用ふれば段々薄らぎます、又茯苓草の細末（此草は春の頃野原に咲くうらかせ草又はかはらさいこと云ふ葉に白い毛の立つた黄色の花の咲く植物）（薬店にもあり）を水で溶いてつけるのも法です。

色斑は、ソバカスと同様の手當を加へ常に血液の循環をよくし、皮膚の清潔を保つて置く事を忘れてはなりません。

鳩胸猫脊出尻を見よくするには

鳩胸を見よくするには、襟付で鳩胸を隠すのであります、衣服を着るのに固く襟を掻き合せず、上着下着の襟を揃へて胸の間を開け、襦袢の襟を寛くし、其れを前へ引き出して胸の高さをかくすのであります。

猫脊を見よくするには、成べく身體を真直に伸ばし、少し反身になり其の間の低い所へは綿で拵へた袋を挟み、帯をグット高く締めれば、身體に高低がなく形よくなります、始終此嗜みを怠らなければ自然猫脊も直ります。

出尻を見よくするには、目立たない程に反身になり、鼻の先と臍とを真直に揃へて爪先で歩く様にすれば、身體が伸びて出尻が隠れます、なほ又腰バサミで尻の上の凹

んだ處を巻き、其の上に着物を着、帯をお尻にかけて締めれば、腰とお尻とが平になつて體裁よくなります。

顔の上氣を止むるには

寒い日に外から歸つた時分、顔の眞つ赤に上氣するは婦人により勝な事でありませうが、此場合には家に歸へつたら直に熱い湯でよく顔を洗ひ、後微温湯で再び顔を洗つてよく乾すがよろしいのであります。

新しい化粧

一、クリームを塗り（丁寧にする時は粉白粉を一面に刷きつける次に水白粉か練白粉をつけ後牡丹刷毛にて斑なくたゞきつけます、又クリームを塗り白粉をつけ尙又牡丹刷毛でおさへ最後に水刷毛で白粉の落付をよくいたします。

美顔法と同じ方法をしたる後

一、つぼみ(襟の化粧下)を一面につけ固練白粉を化粧水にてとき板刷毛で斑無くつけ次ぎに牡丹刷毛で刷き又クリームをつけます其の時掌で軽くおさへて粉白粉をつけます而して白粉の落付をよくする爲水刷毛で刷きます。

眉及口

眉墨はなるべく自然を尊びなるべく目立たぬ程度にて薄く引きます、口紅も薄く全體自然を本體に塗ります。

化粧の仕方

白粉の塗り方は、個人によつて手加減のあるものですが、顔の瘦た人や、蒼白い人は肉色白粉を使ひ、鼻の低い人は、鼻すじに少く濃く塗り鼻の高い人は、鼻すじを少し薄くつけるのです、又目の窪んだ方は目の淵を少し濃く付け、目の飛び出た氣味の人、目の縁を少し薄くつけます、それから大目玉の人ならば、目の下を少し濃く、細目の人ならば目の上を少し濃くつけるがよろしいのであります、又眈の上つた人ならば、睫毛の眈に近い方を少し薄く、上睫毛の鼻すじへ寄つた所を少し濃くつけ、眈の下つた方は此反對にすればよいのです、然し此の薄い濃いと云ふ事はホンの手加減で、餘り濃淡がすぎると折角の苦心が水の泡になります、すべて低い所へは濃くつければ高く見え、高い所へは薄くつくれば低く見えます。

白粉のよく伸るのには

五十倍の硼酸水を白粉下として用ふれば、大層よく白粉の伸るものです、硼酸は値

段が大變安く唯だ洗顔用として使用つても肌理を細にし、ニキビ、ソバカスを治す効能もあるものですから、經濟にもよく、美顔用にも白粉下にも實に此上なしであります。

湯化粧の仕方

湯化粧とは、入浴の時に淡白りと致す化粧の事で、其化粧は湯を使用ひ、糠袋で鄭寧に顔を洗つて白粉を薄くつけ、熱い湯で手拭を絞り、其の手拭で化粧した上を、軽く押さへて置くのですが、斯様にすると、顔色がほんのりと櫻色になつて、大層綺麗になります。

稀れに化粧して落ちつくには

化粧を仕様とする前夜、糠袋でよく洗ひ、少し厚化粧をして寝て、翌朝之を洗ひ落

して、更に湯化粧をなし、そうしてのち本化粧をなす時は、不斷化粧をして居る者も同じ如くに、白粉がよく伸びて、假令色の黒い人でも、醜く、斑になる心配はありません、之は實驗上の話であります。

白粉が斑にならぬ注意

白粉のむらにならない如くにするには、まづ初に少し濃い位に白粉を顔と頸筋に塗りつけて、手で生地が熱くなるまで擦り込むのです、さうすれば、白い垢がよれるから、それを拂ひ落しては、擦り込むと云ふやうに、何遍もくり返して、白い垢の出来ない如うになつたならば湯を使つて洗ひ落し、そうしておいて、白粉を、つけますとよく落ついて決してむらの出来るやうな事はありません。

美しい襟白粉のつけ方

頸すじには、顔よりも一層厚く化粧すべきものでありますが、それには塗る前に極く少量のワセリンを掌で揉みワセリンなき時は少量の鬚附にてよし襟足から頸にかけてむらなく引き、柔かき布片又は紙にて良く拭き取り手に油氣の残らぬ如うにして白粉をつけるをよく伸びます。

此方法は手でつけるよりも、板刷毛もしくは筆刷毛にて刷き後牡丹刷毛で叩くと斑がなくなり、その上を更に水刷毛で刷き絞つたタオル又はガーゼで軽く押へますと落ついた化粧が出来ます。

顔の缺點を補ふ化粧術 (其二)

丸い顔——長い顔——出額

丸い顔は、額を目立ぬ程に剃り上げ、小鬚より前髪の生え下りの内へ、白粉を少し刷込み、それから白粉を生え際から初め、次に耳のあたりは、白粉を薄くつけ、それ

から、耳の後から耳朶の下へ塗り及ぼし、そこから頬骨へかけて、咽喉頸筋へ向け、白粉を濃く塗るのです。

長い顔をかすすには、なるべく額を剃込まぬやうに又白粉を生際までつけない如うに、萬事丸顔の反對の化粧法を施せばよろしいのであります。

出額の人には、額に白粉を至つて薄く浴き、額の生え際から白粉を薄く刷き、それから額一杯に塗り、次に絹の布片で、生え際から五六分ばかり下へ白粉を残し、その餘の白粉をよくふき取つて後、常の如く白粉を施すのであります、斯うすると初め薄く塗つた白粉は地色の如く見えて、生際がスツキリとします、そうして前髪を成る可く前へ出せば少しも出額が目立ちません。

顔の缺點を補ふ化粧術 (其二)

低い鼻——小さな目——出目

低い鼻、之は白粉のつけ方の所でも違べて置きました。眉毛の中程から鼻の柱へ通して、白粉を他所より少し濃く塗り、鼻の兩脇へ、むらのない如くに刷いて置くのです。そうして顔の化粧は少し薄目にし、紅もうすくつけた方がよろしいのであります。斯うすると、鼻すじが通つて見えますから、自然低い鼻も高く見える譯です。然し餘り濃淡の差が甚しいと、却つて變に見えますから、程加減を誤らない如にする事が大切であります。

小さな目、まづ普通に化粧してから、上瞼の眉毛の邊を濕つた手拭で軽く拭ひ、そこへ極うすく紅をさすのです。そうして目は遙に向ふを見る心持で、ハツキリと開いておれば少しは難をかくす事が出来ます。

出目、瞼の上には白粉を濃く塗り、目の中へも少し白粉を塗り入るれ如くに致すのであります。そうして成可く常に、目を剥き出して瞪ると云ふやうな事を慎んで、起居ともに目八分にしてをれば、餘程出目をかくして額をやさしくする事が出来ます。

顔の缺點を補ふ化粧術 (其三)

下り目——大口——厚い唇

下り目、普通に白粉を塗つて後、少し濕つた手拭で瞼をあけて眦を上の方へツツと拭ひ上げ、その後へ紅を塗つてうすく肉色と同じ位に、ほんのりと眦の所から上の方へかけて塗るので、それから瞼の下の方は瞼へかけて白粉を塗るのであります。

大口、唇の中へ白粉を三分目程かけて塗り、それから紅は唇の中三分目程よけて七分目程の所から少し濃くつけるのです。尤も此の割合は口の大小と格好によつて多少の相違はあります。

厚い唇、化粧をする時、白粉を唇へかけて塗り紅を少し濃くして狭くする事などすべて大きな口腔を小さく見せる仕方と同じにするのであります。そうして口吻に餘り紅を一杯につけては不可ません。

紅のさし方

上下唇の外周りを、濃く鮮かに引いて、外側から次第に半分ばかりうすくつけ一寸舌を出して舐めると恰度よい鹽梅になります、それから紅の中には有害な色素を含むものもありますから注意して純良な臘脂を求めて使ふがよろしい、京都の小町紅は幾ら永く経つても色の褪めないといふ効能があつて最も良品としてあります。

眉の引き方と黛の製法

眉は濃くさへあれば、どうにでも自分の好みの形につくる事が出来ますが、薄いは黛を以つて眉を拵らへるより外仕方がありません。

黛の製法は種々ありますが、最も簡單なのは、壇の栓にするキルクを焼き、又は玉子の白味を生紙に伸し乾した後黒焼にしてそれを粉末にしグリスリンに混ぜて

使ふのです、その他桐の木片を焼いたもので眉を引く方法もあります、すべて眉を引く時は眉筆を用ふるを便とします、然しキルクの黒焼や、桐の木片の黒焼は、半焼となし、先を少し尖らして鉛筆を太目に、けづつた形として使用すれば、便利です。

引き方は左の眉の上側の線より始め、眉根を目立たぬ位薄く眉中を少々濃目に、眉尻を眉根と同じ様に目立たぬ位に薄く引き下げます、常に自然の形を忘れぬと云ふことに心掛けて、引いたあとは濡布若しくは指先で線の上を上から下へ眉毛へ摺り込む様にしてぼかします、左がすんだならば、右眉は左眉にならつて引きますあまり濃く引くと、優しい顔もきつく見えまするばかりで無く非常に下品な顔になります。

垢ぬけせし人の化粧法

女優、藝妓など垢ぬけのした人は常に餘り白粉は厚く塗りません、寧ろ極めて薄くホンのお化粧したと言ふ申譯だけでやめて置きます(二十歳以下の人達は別として)

中には化粧下の水位をつけて白粉を用ひぬ人もあります、又顔の色のよくない者は、肉色白粉を用つて普通の白粉は用ひません、それから生え際や、眉を整へるにもキルクの黒焼、棒黛（化粧品店にあり）位を簡単に使つて餘り手のかかつた事は致しませぬ、そうして、いざお座敷と言ふ時でも、餘程念入の人でない限りは若い人でも年増でも素人が想像する程に、化粧に心を用つて時間を費すものではありません、それで居て何處か垢ぬけがして美しく見えること云ふのは、つまり平常の嗜みにあるのです、平常手でも顔でも不精にしてよく洗ひもせず置いて、事の起つた場合にのみ一生懸命に化粧したとて、決して、綺麗になるものではありません、婦人は自分の皮膚相應の手軽な化粧位ひは用務の旁ら施して肌の荒れぬ様に心掛け常に女子の身嗜を忘れてはなりません。

着付に就いて

如何に容姿の優美な人でも衣服の着こなしが下手でありましたら、それ程引立つて見へません、假令自分の身體が不恰好でありましたも、着こなし次第では、その缺點を隠す事が出来ます、併しいくら着こなしが上手でありましたも、衣服の仕立方が自分の身體にピッタリと合つてゐませんと、矢張り恰好よく優美な姿とする事は出来ません。

假令へば普通より首の太い人、又は細い人が普通寸法の袷肩明けで仕立てたり、又は袷衣紋をする人が、襟肩明けを普通の衣服の如く、真一文字に裁つたり、帯を胸高にする人が袖付を普通寸法で仕立たり致しましたのでは、どうしてもうまく着こなし事は出来ません、ですから着崩れのしない様に着付をしますには、先づ衣服の仕立方裁ち方から注意しなければなりません。

着こなしに就いて最も注意しなければならぬ事は、身體の恰好が不自然にならぬ事であり、身體がダブ付いて居るからと云つて無暗に紐を何本も使つて堅く締め上

げたり、お乳の邊りを布で堅く締めつけたり致しましたのでは、フンワリとした柔か味のある自然の曲線美を失つて了ひます、何處までも柔かな肌を包んで居ると云ふ感じを興へる様にユツタリと着こなす事が肝要であります。

着崩れのしない衣服の着方

着崩れのしない様に衣服を着付けますには、着物より長縹紵の着方に最も注意を致さなければなりません。

ごんなに着物丈はキチンと着ましても、長縹紵の着方が悪かつたならば直に着崩れがしてダラシなくなつて了ひます。先づ肌縹紵の上に長縹紵を着ましたならば、適度に衣紋を抜いて、胸の邊りにタルミが出来ない様に充分に注意して伊達巻をキチンと致します。

すべて衣服の着付けは長縹紵の着方が土臺になるものであります、ですから長縹紵を

仕立ますには殊に注意して丈は長からず、短かからず裾は踵一杯にし、前身には一寸(四纏)程の前下りをして置させぬと少し抜き衣紋をすると前が釣れて格好がつかまません。

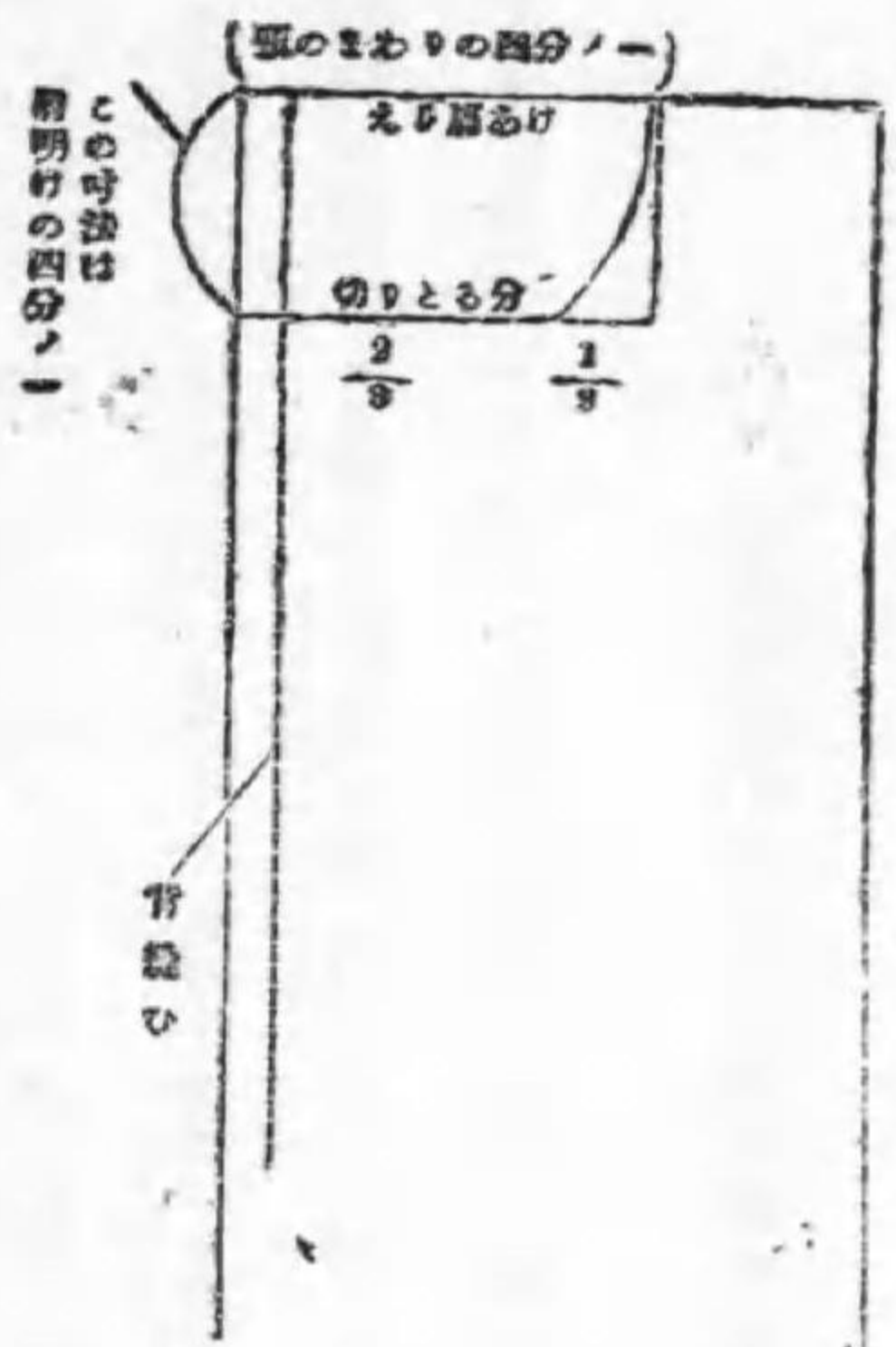
次に腰紐の締め方があります、普通は腰の骨の少し上に致しますが、からげが澤山ある場合や、足の短い人や、脊の低い人は腹部に致しますと格好がよくなります。腰紐を締める時、袷先が腰紐の上に出る様恰度腰紐一杯に裾下を定めて仕立てて置きますとごんなに歩いても袷先の鉤が腰紐に掛つて前裾下りの着崩れを見ません。

着崩れのしない衣服の仕立方

衣服を仕立ますには舊來の習慣や標準寸法なごがありまして、假令着心地は良いと思つても矢張り、習慣や、標準に拘泥する傾がある様であります。

假令は袷肩明きなご、標準寸法は女もの二寸五分(九纏半)男もの二寸三分(九纏)

と定めてあります。首の太い方も細い方も亦抜衣紋をする人も、しない人も皆二寸五分（九厘半）を一文字に開けて了ひます様ですが此開け方ではごうも格好よく抜衣紋をして着崩れのしない着付をする事は出来ません、矢張り首の太い人は普通寸法より



廣ろく、又抜衣紋をする人はそれに應じて衿肩明けも眞一文字に裁たず、首の周りを圖の如く圓く裁ち落しますと抜衣紋をしても着崩れが致しませんばかりでなく、衿付の周りに無理な皺も寄らずフンワリと自然の儘に着付が出来ます、次に袖付であります、袖付は晴着又は禮服の時は平常より帯を胸高に結びますから不を着より一寸（四厘）位少く付けて置きますと帯をしても、袖付に無理が行きません。袖付が多いと袖がつり上つて落ち付がなく、其ため着崩れも早くなります。

次に長編紵の仕立方は關西風のツマミ衿より矢張り關東風の別衿の方が着崩れがしなくて氣心地も良い様であります、すべて衿には、編紵の半衿を問はず衣服の上下着の衿には日本紙を縦に長く折つて入れ衿を半紙と共に二つ折りにして衿肩から衿先の邊りまで入れて置きますと衿がキチンとして着崩れが致しません。

けれども之は縫ひ込んで了つて置くと、皺になつた時取り換へるのが面倒ですから、仕立てる時には其儘にして置いて、着付をする時に、裏衿に半紙を宛て躰糸で綴付けて置いて着終つてから、其糸を取る様にした方が便利です、半紙を綴付ける時裏衿だけへ綴付けて置きますと、着る時にすれますから、表へ糸を出してシツカリ綴ち付けて置いて、着終つた後取つた方が宜しう御座います、併し羽織の衿は仕立てる時に入れて置かなければなりません。

縮緬類、殊に錦紗、小濱などは衿肩から着物物の衿先の邊りまで、美濃半紙の芯を入れて置きませぬと、衿周りが二つにキチンと折れませぬ。

着付前の肌の用意

肌には誰方でも必ず肌繻絆を着ます、これは身體にピッタリと合つた極薄手のものを用ひます。

元來毛織物は素肌には衛生上余り良くないものでありますから、なるべく洒木綿が夏冬ともよいのであります、冬は其上から袋真綿の價一圓四五十錢のものを求め、首の這入る所と兩手の出る所だけ切り開いて下から着る様にしますと髪も毀れず又、格好もよく温いものであります、胸は袋の儘で切り開かない方が宜しう御座います。

又乳の大きい人は、乳バンドかガーゼを六七尺位ひ余り締めつけない程度にして巻きますと、氣持も良く身體が引締ります、夏は汗除けにもなります、殊に縮緬ものや、うす物を着た時などは一目で兩乳房のたれて居る様や、中の溝が見へる心配もありませぬ。

併しあまり強く巻くと、衛生上にも良くありませんし、着付の最も大切な自然美を損ねますから手加減を誤らない様にして適度に巻かなければなりません。

お尻の大きい人も矢張り腰の周へガーゼを半幅にして五六尺巻付けて置きますと、これも乳と同様氣崩れもせず格好も優美になります、晴着や禮服を着ます時には、都腰巻の類は絶対に止した方が宜しう御座います、矢張りキチンとした絹製のものがよろしう御座います。

流行に就いて

一にも流行二にも流行と流行のみを追ふて自分の容姿、年齢、境遇など考へずに柄や色を撰擇する人がありますが、考慮を要する問題だと思ひます。

すべて柄、模様、色合などは流行の如何によるよりも着る人の顔の色、身體の肥瘦脊の高低等に依つて其調和不調和を考へた方がどれだけ優れた容姿を整へる事が出来

るか知れぬと思ひます、假令へば模様ものが流行するからと申して、肥つた脊の低い方がそれを用ひますとなほ更ら横を廣く肥つて見えます、又ボカシ模様なども幅を廣く見せるものであります。

色の黒い人がいくら流行の色合でも薄色のものを撰びますと余計に黒さが目立つて何となく汚れた様な感じを顔に見えます、色の黒い方は黒味がかつた色合ひのものを撰べば間違ひなく、誰れにでも良く似合ふものであります、其反對に色の白い方は大抵の色物は似合ひますが、余り流行を追つて突飛な眞似をしますと、或る種の職業婦人の如うで、上品味を失つて了ひます。

流行もの必しも良い趣味のものばかりではありませぬからくれぐれも流行に偏せず境遇、年齢、容姿、身分等を考へて其適不適を極めた方が良いと思ひます。

昔から身分相應と云ふ事があります様に、矢張り一枚の衣服を求めますにも、身分相應のものが何より優美なものであります。

又ごんなに流行を追ふて美しく着飾つても其の人の境遇がそれに調和して居なかつたら、却つて其人の品位が殺がれて了ひます。

肥つた人の着付

肥つて居る人は、瘦せて居る人よりも着付に苦勞します、又折角キチンと着付ても直に着崩れがしますから、肌の用意から相當に整へて置かなければなりません、肥つた人は大抵お乳も大きい御座いますから着付前の肌の用意の所で詳しく述べました如うに、乳バンドかガーゼの如うな薄いもので、軽く巻いて置きますと、ダブ／＼した感じも取れ、身體も何となく引締つた如うで心持が宜しう御座います、けれども余り強く締める事は禁物であります、ただ今は肉付の豊かな、衛生的の體格の人を好まれて居ります、肥り肉を細く見せ如うと余り強く締めますと、肉が胸の上に行つて却つて不自然な形になります、又衛生上からも胸を強く押へ付けるのは宜ろしくありません

單に乳房のダラケない位ひの程度でよろしう御座います。

又肥つた人は大低腰周りも身體に従つて大きいものであります、ですから腰からの裾の邊りを特に氣を付けて、着付を致しませぬとマルで筒の如うに見へます。

それはおはし折りを(腰紐)する時によく氣をつけて下裙をキチンと少し上に釣り上げ、上裙も五分位引上げて、からげも二寸位を程度と致しまして、腰紐を結べば宜しう御座います、後は前よりもタツブリ出して、其上に伊達巻を巻きます。

又お尻の大きいのを隠すには帯を一重巻いた後ろへ、小枕を宛て、其上に帯を結びますと、帯のたれと身體の間に隙が出来ますから、お尻のふくらみが影になつて隠れます。

肥つて居るからと云つて無暗に抜衣紋をしますと、余計に首の周りが重々しく野暮に見へるものです、肥つた人は衿肩明けを普通より少し大きく、衿も少しクツて置くと着良いもので御座います。

帯は、狭い幅のを結びますより、幅を普通より少し廣ろく仕立て置きまして、結び方も少し斜に結むの方がよろしい様であります。

又着物の背中に縦皺を扇型に寄せて着ますと、幾分細く見せます。

肥つた人が帯を余り強く締めてお腹を細くするよりは、身體一杯の太さにユツタリと締めた方が、肩や腰の大きいのが目立ちません。

痩せた人の着付

痩せた方は着付にはそれ程苦勞は入りませぬが、餘り細く肉附が悪く見へる如うな人は、帯の下になる位ひの所へ、肌着の上から洒木綿を五六尺巻いて笠けば、お腹に力が入つて帯付もユツタリとして見へます。

又肩にも丸い肉がある如うに見へる方が良いのでありますから、衿肩明けを普通より狭く開けて、衣紋も狭く抜いた方が良いのであります。

又下縹絆の衿を、厚目にする事が必要であります。

長縹絆の半衿は、芯に少し綿を入れて、フツクリとさせる如うにし衿も澤山見せる方が宜しう御座います。

半衿の柄は模様ものより、刺繡ものの方がよく似合ひます。

帯の締め方は、あまり胸高に結ばない方が宜しう御座います。

背の低い人

背の低い人は平常は年より若く見へる特典はありますが、晴着、禮服などの場合は、それ程引立つて見へません、矢張り背の高い方が方が晴着には引立つものであります。

柄の注意と致しましては、大柄よりは細い模様が良く腰模様に致しまして、腰一杯に付けず少しは生地が残る位の方が宜しう御座います。

縹ものならば、横ものよりも矢張り縦にスウーとハツキリ通つた柄の方が幾分か背も高く見えます。

おはし折りの幅はなるべく狭く二寸より廣ろくなつてはいけません、若し長い着物でからげが澤山ある場合は、細紐を締める時に、下に畳み込んで伊達巻で押へて置けば宜しう御座います。

背の低い方が少しでも足を長く見せ様として帯を胸高に結びます如うですが、胸高に結ぶと却つて胸の邊りにせせこましい感じを與へて、釣り合ひが取れなくなりま、併し普通より心持高く、おはし折りの、幅も、普通よりは狭く、後ろの結びも普通より少さく結んだ方が、それ程低くさが目立ちませぬ。

袖丈は背と大變關係のあるものであります、ですから背の低い方は普通の人よりは短い加減の方が、袖下と裾の間の距離があつてスラリと見へます、殊に振り袖などは、裾まで引かず裾から二三寸短かくした方が宜しう御座います。

背中の皺

二〇八

背中の皺も年齢と自分の體格に依つて加減しなければなりません、若い方なら左へ扇型の襷を取りますが、中年の方なら、いの字型位にして置きます。又四十前後の方なら餘り背中に皺を出さない方が宜しう御座います。帯の上で着物がダブ／＼して居つてはお婆さんの如うに見へますからキチンと下へ引いて置かなければなりません。

裾捌きと前の合せ方

前の合せ方が拙いと前の格好を悪く見せるばかりでなく、足にからみ附いて歩き難いものでありますから、腰紐を結びます時に、下裙を二寸位高く上裙を五分位ひの氣持で上に上げ、下裙は腰紐を締めた所から裾は衽だけ反對に上裙の裏と向合せになせぬ。

前を合せる時は、立裙が腿の幅の所へ来るのを限度にして合せます、腰紐を結ぶ所は背縫ひが必ず真ん中にならなくてもよいのであります。

怒り肩と肩幅の廣い人

怒り肩の人は肩に丸味を付けるため御纏絆の衿は首へまき付けられない様に肩に滑らして合せます。

衿肩明は普通より少し廣ろく開けて、衿にはそれ／＼半紙の芯を入れて置きますと衿がキチンと立つて宜しう御座います。

肩幅の廣ろい方も怒り肩の人と同様に普通の人よりも衿肩を廣ろく開けてそれ／＼

二〇九

半紙の芯を入れて着付をします。

又縹紵の半衿は肩で澤山見せてます又、衿肩明を廣ろく開けるのは、衿付と肩の間が迫りますから幾分細く見せることにします。

帯はお太鼓の山に丸味をつけてフンワリと結ぶと宜しう御座います。

撫で肩と首の短い人

撫で肩は昔から格好の良いものとされて居りますが、餘り肩が落ちすぎますと淋しく見へます、矢張り肩は幾らか丸い肉がある如うに見せませんと、柔かい曲線の美は出ませぬ、ですから衿を合せます時は、横に深く喰ひ合せ、衣紋も狭く抜きます、従つて衿肩明けも普通の人より狭く明けて置きますと宜ろしう御座います。

帯は山を餘り丸形にしない方がいくらかシャンとして見へます。

首の短い人は衣紋を三角の型に抜き着物の衿は出来るだけ首へかからない如うにし

て顎の下から胸にかけて寝かして縦長に合せます。

首の短い人は首を動かす度に、衿が直にヨレ／＼になりますから、矢張り着る時に衿には美濃半紙を芯に入れて着るこ、そうした場合衿の格好が崩れませぬ。

衿の芯の入れ方は着崩れのしない着付の所へ詳しく述べてあります。

羽織の着付

羽織の着方など怎うでも良い如うに考へて居りますが、そうではありません、如何に優美な姿の方でも羽織の着付方が拙いため随分その容姿を害ねる事があります。

又羽織の帯は怎うでも良いと、四ツ身帯を帯上げもせず、ダラシ無く結んで居る方がありますが、それでは着物の着崩れが直にするばかりではありません、後ろから見ても羽織がフツクラとふくらんで居りませんからギゴチない感じを與へます。

又羽織を着て後ろがストーンと落ちて丸で絶壁の如うな感じを與へますのは、實に下

品なものであります。

羽織の下の帯は矢張り普通の帯をなるべく高く結び、結び目が横に擴ろがらない如うに、真ん中の上部を高く致しますと、羽織を着て品良くなります。

羽織の衿は姿と關係のあるものでありますから身體の太い方は、衿幅を廣ろく、細い方はその反對に致しますと宜しう御座います、羽織と着物の袖丈を揃へるには、羽織の袖丈を着物より普通五六分短かくして置きます、縮緬もの等は一寸位短かく仕立て置いて丁度宜しう御座います。

羽織と袖丈を合せ如うとして、帯を結んで後、袖付をつまみ出しますと、胸の格好が早く崩れます。

猫背と鳩胸の人

猫背の人は衣紋を細く深く抜く如うに致します。

衿肩明けは一文字に開けず、洋服の衿ぐりの如うに、後ろへ五六分くつて開けて置いた方が宜しう御座います、衿には必ず日本紙の衿芯を入れて着る事を忘れない如うにして、衿をピンと立てて着ます。

猫背の人は帯を高く結びますと、却つて可笑くなりますから、帶上も餘り高くなく帶も普通に結んでお太鼓がピッタリと肩中に付く如うな形にすれば、充分隠す事が出來ます。

鳩胸の人はなるべく、胸の部分を薄くする如うに心掛け、縹絆の衿も、着物の衿も前に合せる所は薄手にして、幾らか胸を開き加減に細く、縹絆の衿を出す如うにして着ると目立ちませぬ。

帯の結び方

帯の結び方は年齢や體格、髪結び方によつて違へなければなりません。

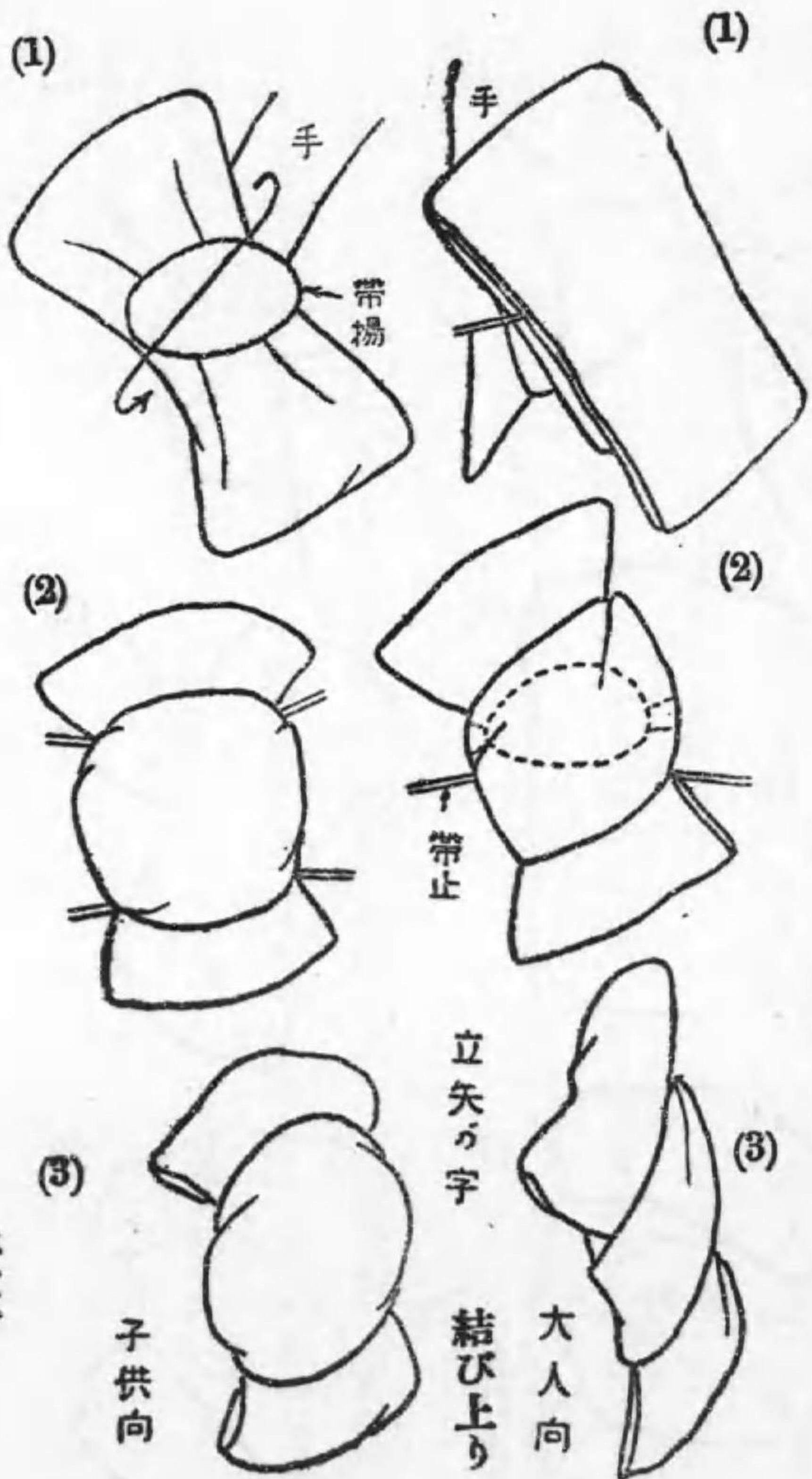
丸髷の場合、島田の場合とは同じお太鼓でも結び方に大變の相違があります、同じお太鼓でも若い方の結び方は種々變つた型に工風を凝らして、優美に若々しく結びます。

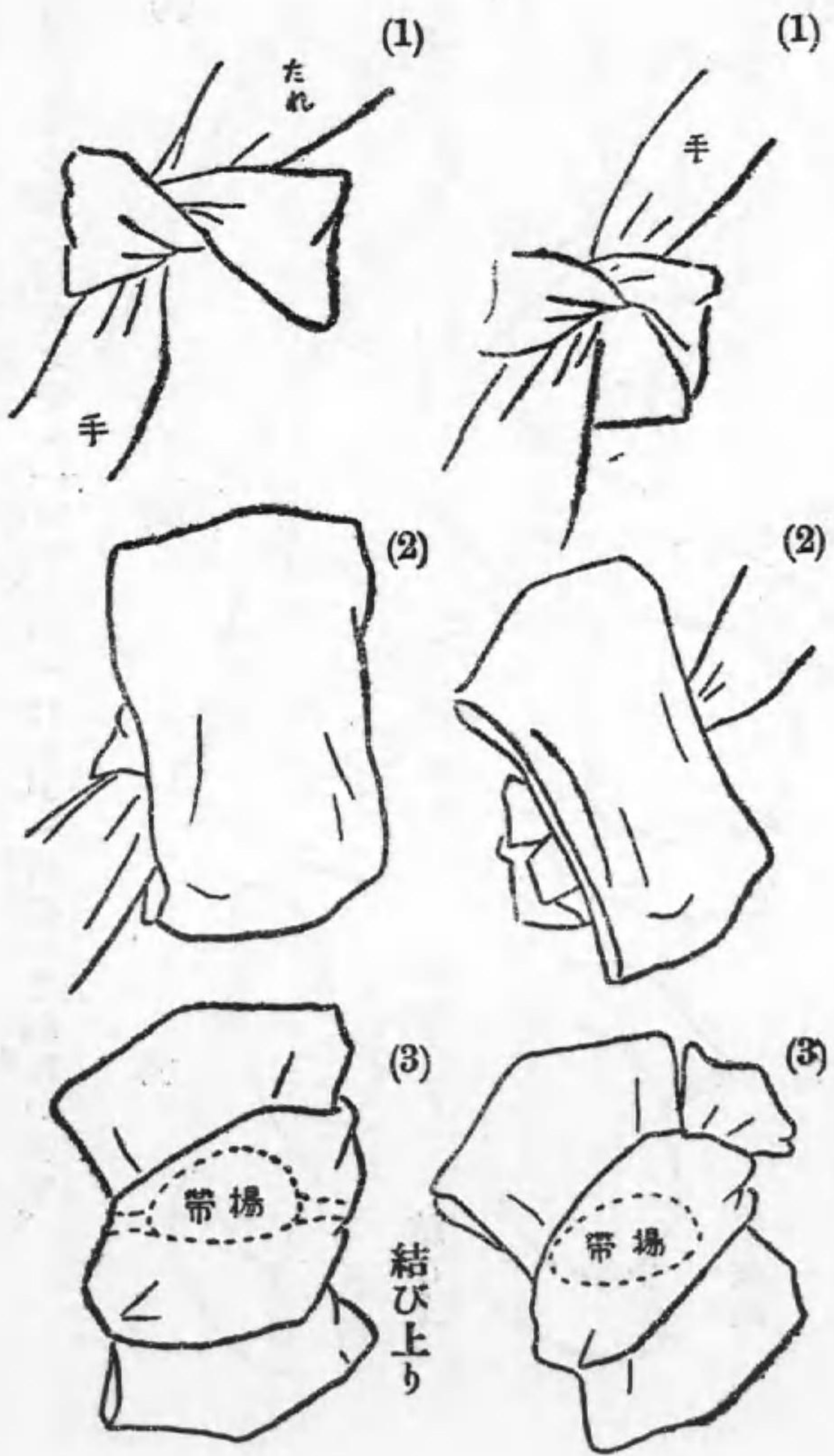
帯は身體の中心となる大切なるものでありますから、柄とか、結び方とかには一層の注意を拂つて、其着物の配合、身體の格好に應じて、適宜な結び方を選ばなければなりません、最も華かな模様や紋服や、社交服を着た時ならば、變つた派出やかな結び方も一層引立ちますが、普通の場合は矢張り従來のお太鼓を身體に應じて、手加減して結んだ方が、溫和しくてよい如うであります。

立矢の字の結び方

立矢は昔から上品な結び方ですがきまりきつてゐる形だけに、恰好よく結ぶには骨が折れます、この結び方は四五歳の子供から花嫁まで結べますから年に應じて少しづつ

格好を變へて行けばよろしう御座います。
普通お立の端が肩先きから一寸位あがつたのが一番格好で御座います。





結び方四種は圖解によつて會得して下さい

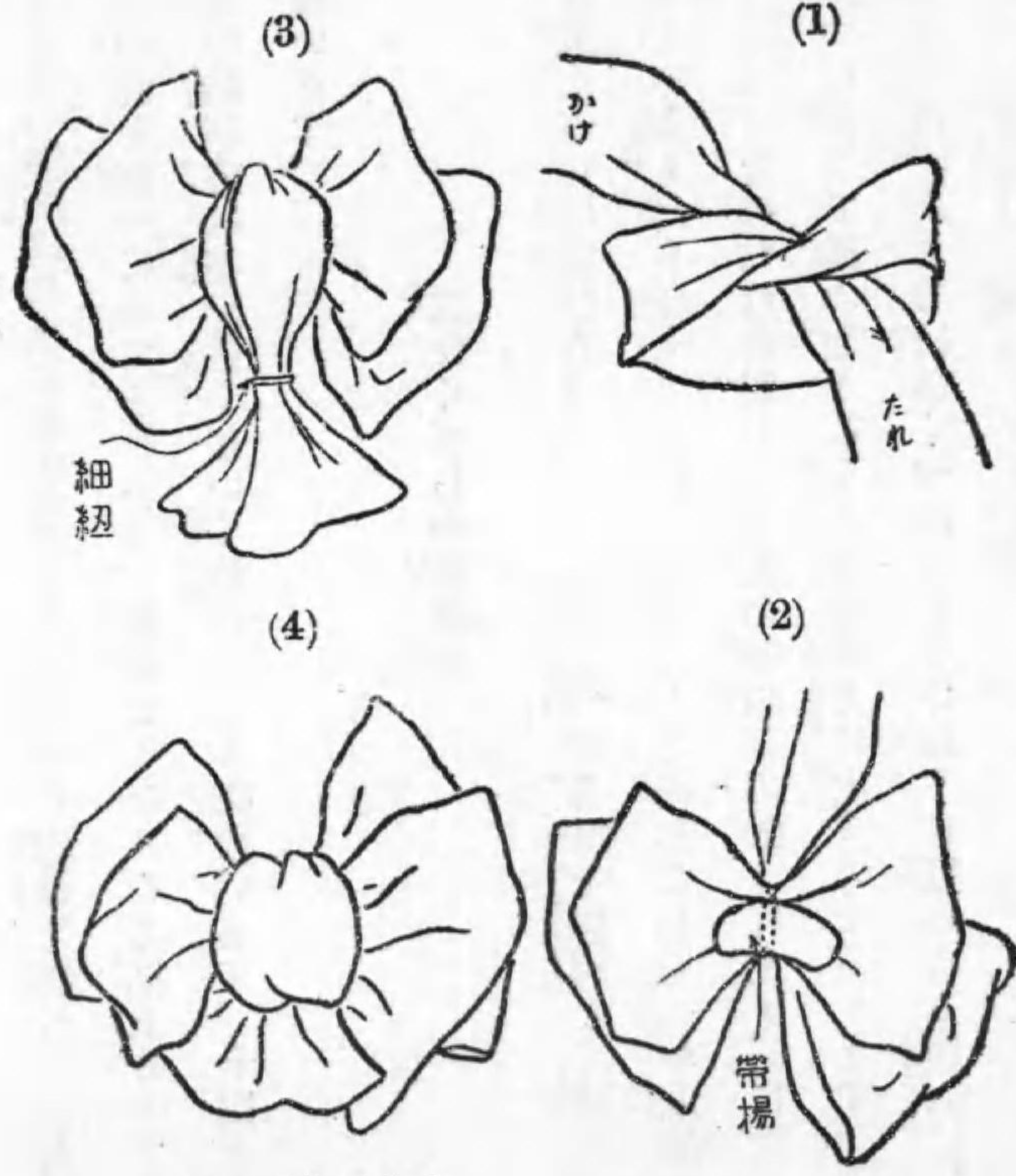
ふくら雀の結び方

ふくら雀の結び方は、織り出しの方を手にとつて一尺八九寸位にいたしまして、圖の如くに、順次に結んで行くのであります。

第二圖の如くに、たれを折つたらあとで結び崩れのしない様に真中は細紐で一寸結へておきます、而して帯の高さに應じて脊中にあて位置を決めまして第三圖の如くに帯上をいたします。

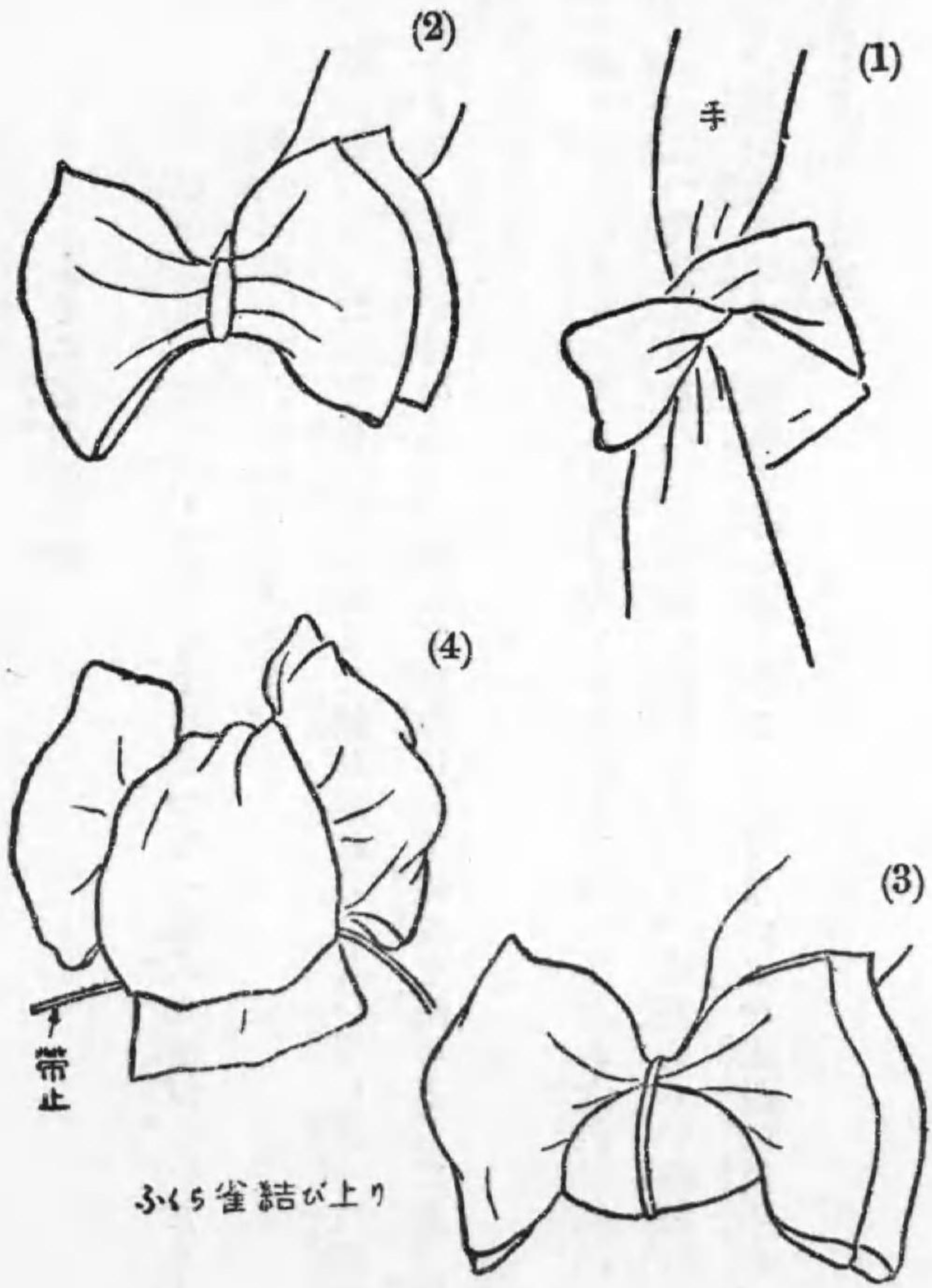
初め織り出しの方を一尺八九寸とつておきまして次に手をお太鼓に結ぶのであります。山は一つ二つ襷をさり左右に出た輪と調和をとつて、自然らしい格好に結びます。注意、堅い帯の時は、帯揚の芯は極く小さいのでないとお太鼓の真中が、高くなつて見苦しくなります。

び 結 ら ば



ばら 結び 上り

ばら 結び
 ばら 結は、
 ふくら雀の結
 び方に少し工
 夫を加へた、
 にぎやかな結
 び方でありま
 す。
 結び方も圖
 の如くにふく
 ら雀と異つて



ふくら 雀 結び 上り

居ります、個所はたれに襷を取つて、扇形にし細紐で結へてお太鼓を、ギユツとメて左右の輪を四つにしてそれく、格好よくひろげて結上るのであります。此の結び方は帯が長くないと結びにくう御座います、十四五歳から二十歳前後向で御座います。

立矢くづしの結び方

立矢くづしの結び方は、ふくら雀及ばら結を應用して結んだ結び方であります。ふくら雀もばら結も、たれを左右にして輪をこしらへお太鼓を作りましたが、立矢くづしは、そのたれの輪を、立矢の字結びの如うに上下斜に立て、手も、たれの先きも六つに折つて圖の如うに上の輪の兩方に出すのであります。結ぶ時は、あとで結びくづれのしない如うに襷のある所、たれの先も、手の先も、輪の真中も細紐で、結へておきます。

立矢くづし結び方

晴着に、着かへた時なご一寸若々しい感じのする結び方であります、子供から二十歳前後向きに適します。



立矢くづし結び方

お太鼓

お太鼓は一般上下を通じて誰も彼も結ばぬ人はありませぬ又若い人も中年の人も平

常も、外出も、儀式用にも和服を着てゐる以上結ばなければなりません。體に應じて恰好よく結びますにはなかく六ヶ敷いものであります。

お太鼓を結びますには、先づ帯の模様もように注意ちゅういいたしまして最もよい模様の所ところを生かして結ぶ様に心掛けて、抜き出して結ぶか輪わにして結ぶかを決めた方がよろしう御座います。

小枕をばさみたる圖



晝夜帯ちゆうやおびならば、片側かたがはの美しい配合はいがふが生きて参りますから、抜き出さず輪わにして、その模様もようを兩側りやうがはで生かして結んだ方が宜よろしう御座います。垂れの長さながさは、餘り長ながくしない如ごとうに普通二寸位ふつうにんぐらゐが恰好かくかくで御座います、あまり長なが

と野暮やまな感じかんじを起おこさせます、お太鼓たいこの大きさおほさは帯おびの幅はらを考かんがへて、恰好かくかくを作つくらなければなりません。

又お尻しりの大きい方かたは、垂れたれの下したへ小枕こまくらを一つ入いれますと、帯おびと身體からだとが少し離はなれま

すから、お尻しりの大きいのが目立めだちません。小枕こまくらは紐ひもをつけて置いて、帯おびの下したに隠かくして了しまります。お太鼓たいこの恰好かくかくは、その人ひとの好すき不ぶ好ずきもあり、又日本髪にほんがみ、洋髪やうがみ、年齢等ねんれいとうによつて變か

へねばなりません。

洋髪やうがみの時ときは、上うへを丸まるく山型やまがたにして、帯おびを身體からだにピッタリと附つけて帯揚おびあげを結しめ、中程なかほどでフクラませて結むすびます、若い方わかならば、下したにも丸味まるみをつけますと、品ひんの良よい形かたちになります。

日本髪にほんがみの場合あひは、帶上おびどかの邊あたりが高たかくなつて居ゐる方が、上品じやうひんな感じかんじを表あらわします、山やまは餘り丸まるくしないで、帶上おびどかげをする時ときに、兩端りやうはしを内側うちがはに強つよく引ひきますと、帶おびの兩側りやうがはが身み

體に添つて、ダブ／＼した餘分のものがなくなつて、整然と結べます。
お太鼓を作りましたらば、下の垂れも一しよにもつてグツとお太鼓の中に引込んで



き向若



き向髮本日



き向若



き向髮洋

き向後前歳十四



き向髮和



き向後前才十五

した感じもなく斜になつた方が一寸ふくらんで格好も良くなります。

置きますと、垂れとお太鼓との平均もどれ、ダブ／＼



き向髮洋

堅くて締め難い帯と、ズル／＼して緩み易い帯の締め方

堅くて締め難い帯、厚板、縮珍などは結ばずに締める方法にして次の圖の如うにしたが宜しう御座います、斯うして置けば、結び目も皺にならず帯の丈けも五六寸伸びます。

堅い帯の結び方



ゆるみ易い帯の結び方



緩み易い帯、博多、縺子などは幾らしめても直に緩んで参りますから、結び目を細紐で結へて置いて結びます、斯うして結へて結んで置けば、後で緩んで来る氣遣ひはありません。

婦人必須の教へ 終り

昭和四年三月五日印刷
昭和四年三月十日發行

婦人必須の教へ奥附

定價壹圓七拾錢

編輯者 東京市外大崎町桐ヶ谷八十五番地 東京女子教育會

代表者 御 厨 壽 美

印刷者 東京市外澁谷町中通二丁目四十二番地 副 島 慎 夫

印刷所 東京市外澁谷町中通二丁目四十二番地 東京女子教育會印刷部

發行所 東京市外大崎町桐ヶ谷八十五番地 東京女子教育會

福岡縣福岡市外箱崎下社家町二〇五一 福岡縣福岡市外箱崎下社家町二〇五一 東京女子教育會支部 振替口座福岡二二八八五番

不許 複製

終

